

事務連絡
令和4年8月4日

各正会員
事務局責任者様

公益社団法人全国産業資源循環連合会
専務理事 森谷 賢
(担当:事業部 本多)

産業廃棄物処理業の景況動向調査報告書【2022年4-6月期】の送付について

当連合会の事業の運営につきましては、日頃から格別のご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、本調査の実施にあたり全産連発第77号(令和4年6月14日付け)にて貴協会会員企業にご協力をお願いしたところですが、今般、景況動向調査報告書【2022年4-6月期】がまとまりましたので、送付いたします。

報告書の概要版につきましては、連合会ホームページに掲載しておりますので、以下のURLをご参照ください。

【報告書概要版の掲載ページ URL】

<https://www.zensanpairen.or.jp/activities/report/>

次期(2022年7-9月期)につきましては、令和4年10月中旬頃に調査依頼を予定しておりますので、ご承知おきください。

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2022年4-6月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

今期の調査は261社から回答があった。景況判断DIは▲15(前期調査と変わらず)となった。来期の見通しは▲24となり、9ポイント悪化する見込みとなっている。

経営上の問題点については、「修理、修繕費等の増加」、「従業員の不足」、「需要の停滞」の回答割合が特に高かった。「その他」の記述回答では、前期調査に引き続き、燃料費の高騰を懸念する声が多く寄せられた。

以下、その他業況感DIの内訳

2022年1-3月期に対して、

- ・売上高DIは▲4で、4ポイント改善
- ・処理量DIは▲13で、2ポイント改善
- ・営業利益DIは▲16で、5ポイント悪化
- ・資金繰りDIは0で、2ポイント悪化
- ・借入難易度DIは10で、2ポイント悪化
- ・設備投資DIは0で、3ポイント悪化
- ・従業員数DIは2で、2ポイント改善
- ・契約単価DIは、収集運搬が11で、5ポイント改善
処分が9で、4ポイント改善

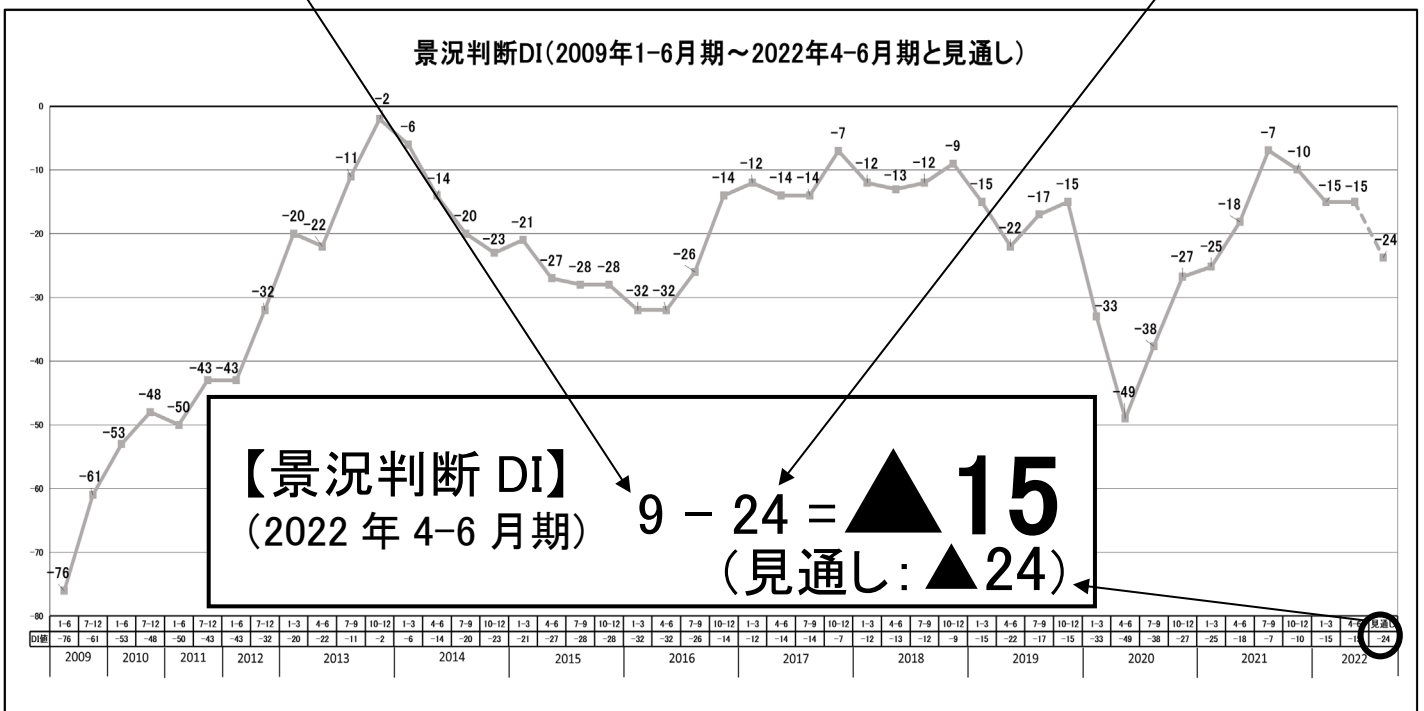
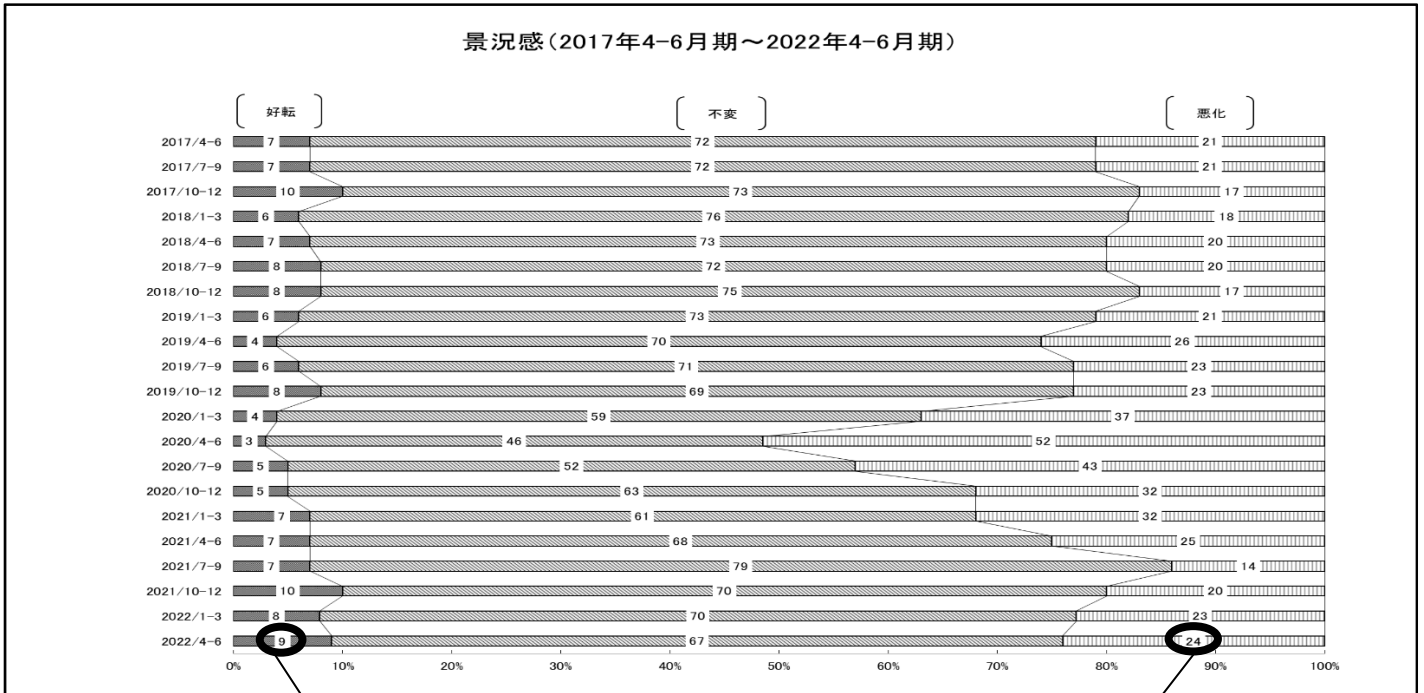
- 売上高の動向については、前年同期比(3ヶ月平均)で0.1%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比(3ヶ月平均)で0.9%増となった。
- 経常利益率については、平均値が6.9%で前期調査(9.6%)より悪化した。

※DIとはディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で「好転」・「増加」したなどとする企業割合から「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

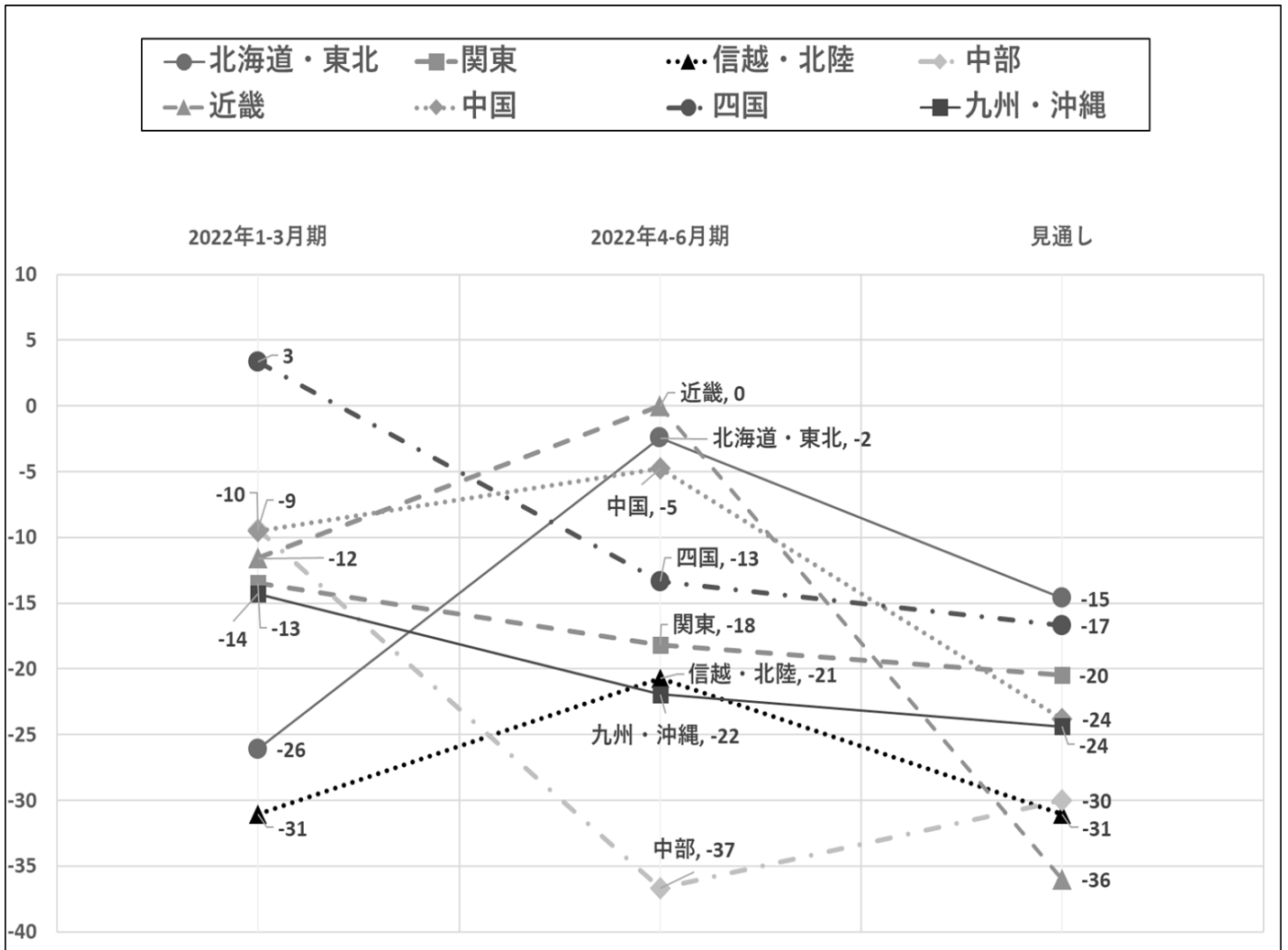
1. 景況感 DI(「好転」・「増加」-「悪化」・「減少」の企業割合)

(1) 景況判断 DI

- 景況判断 DI は▲15 となり、前期と変わらず。
見通しは▲24 となり、9 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 地域別の景況判断 DI をみると、「北海道・東北」、「信越・北陸」、「近畿」、「中国」が改善した。
(3 ページ参照)
- 地域別の景況判断 DI 見通しをみると、「中部」のみ改善する見込みとなっている。
(3 ページ参照)



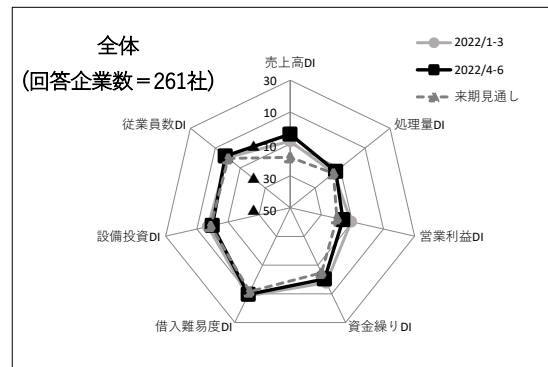
地域別景況判断 DI



	全体平均	北海道・東北	関東	信越・北陸	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
2022年1-3月期	-14	-26	-13	-31	-9	-12	-10	3	-14
2022年4-6月期	-15	-2	-18	-21	-37	0	-5	-13	-22
見通し	-25	-15	-20	-31	-30	-36	-24	-17	-24

(2) 売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI

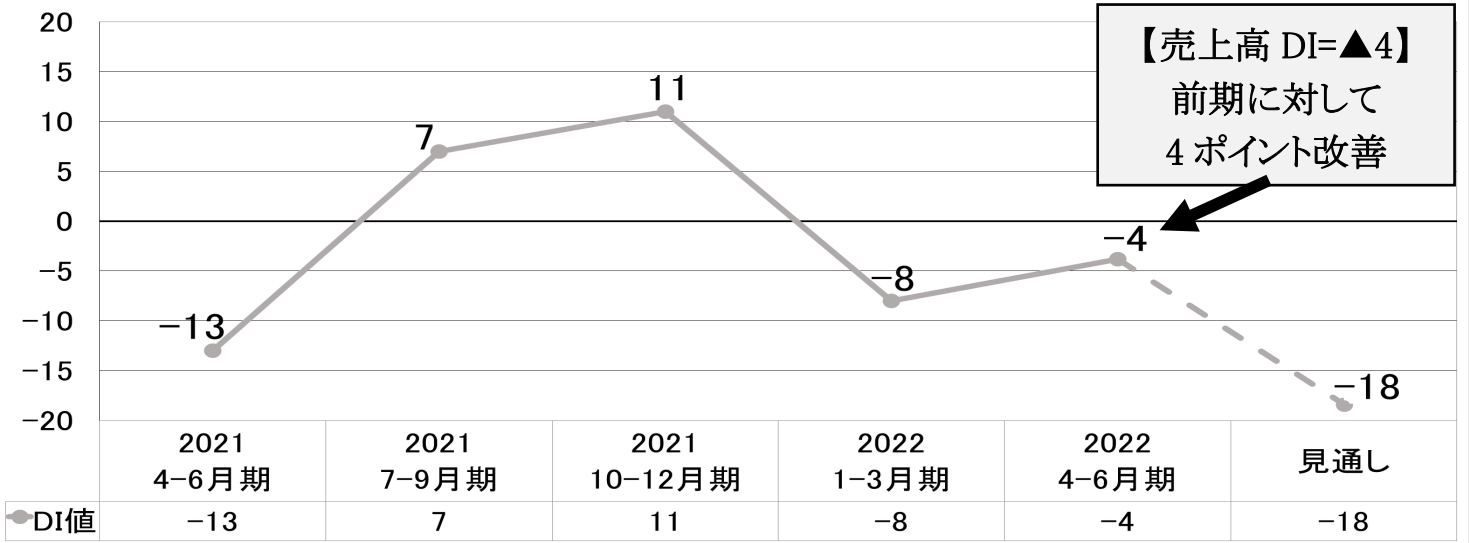
- 前期と比べて、売上高 DI、処理量 DI、従業員数 DI が改善した。
- 見通しは、設備投資 DI のみ改善する見込みとなっている。



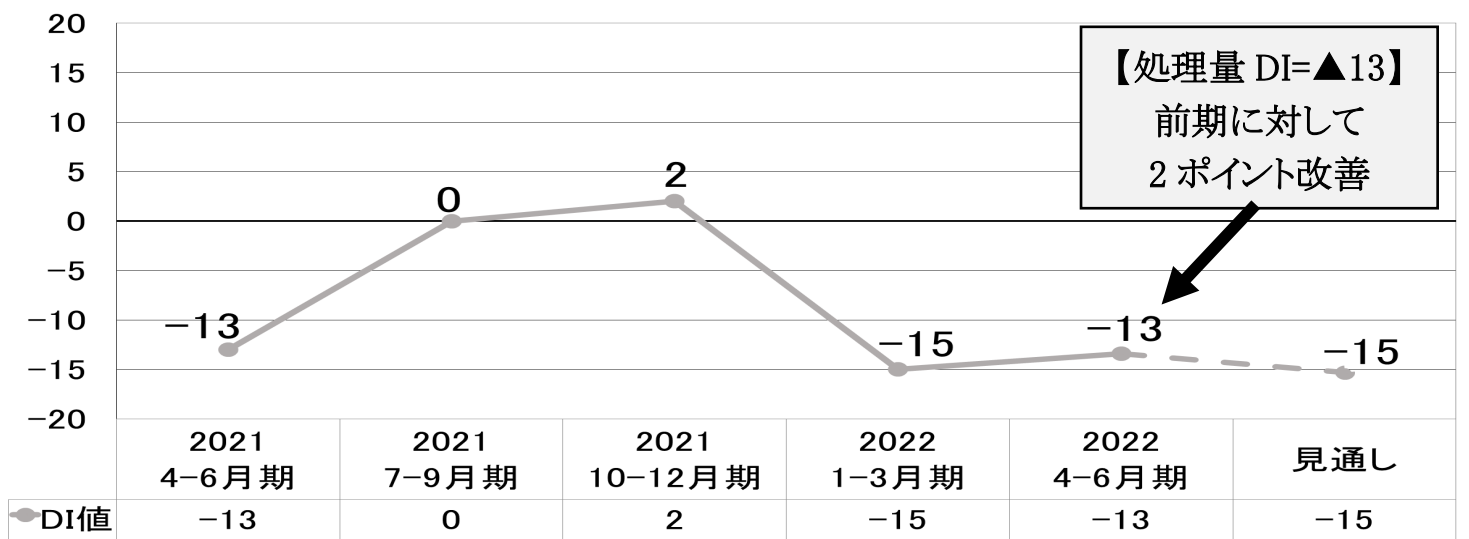
以下詳細(5~7ページ参照)

- ・売上高 DI は▲4 となり、前期と比べて 4 ポイント改善した。
見通しは▲18 となり、14 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・処理量 DI は▲13 となり、前期と比べて 2 ポイント改善した。
見通しは▲15 となり、2 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・営業利益 DI は▲16 となり、前期と比べて 5 ポイント悪化した。
見通しは▲20 となり、4 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・資金繰り DI は 0 となり、前期と比べて 2 ポイント悪化した。
見通しは▲5 となり、5 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・借入難易度 DI は 10 となり、前期と比べて 2 ポイント悪化した。
見通しは 8 となり、2 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・設備投資 DI は 0 となり、前期と比べて 3 ポイント悪化した。
見通しは 1 となり、1 ポイント改善する見込みとなっている。
- ・従業員数 DI は 2 となり、前期と比べて 2 ポイント改善した。
見通しは 0 となり、2 ポイント悪化する見込みとなっている。

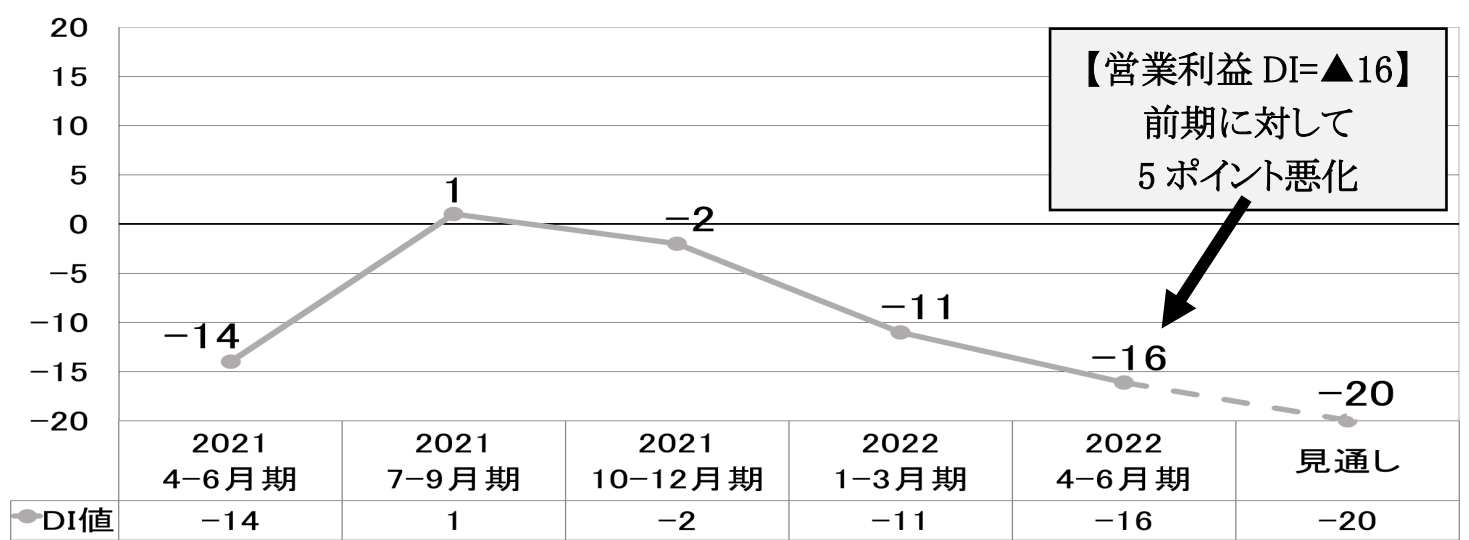
売上高DI (2021年4-6月期～2022年4-6月期と見通し)



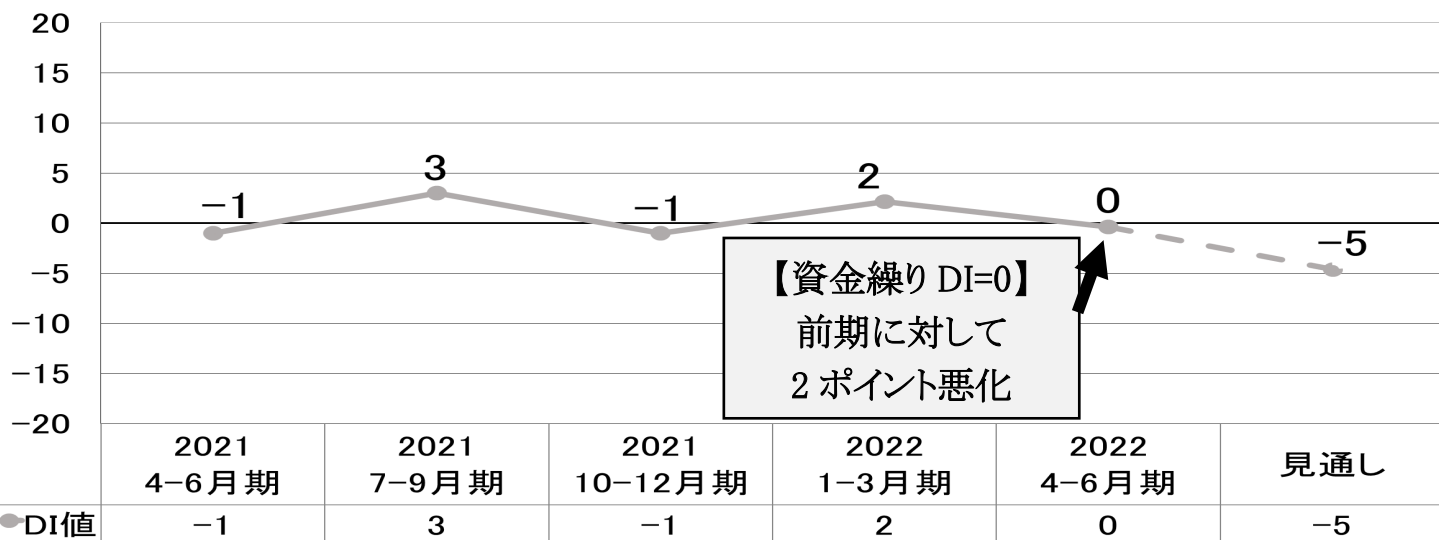
処理量DI (2021年4-6月期～2022年4-6月期と見通し)



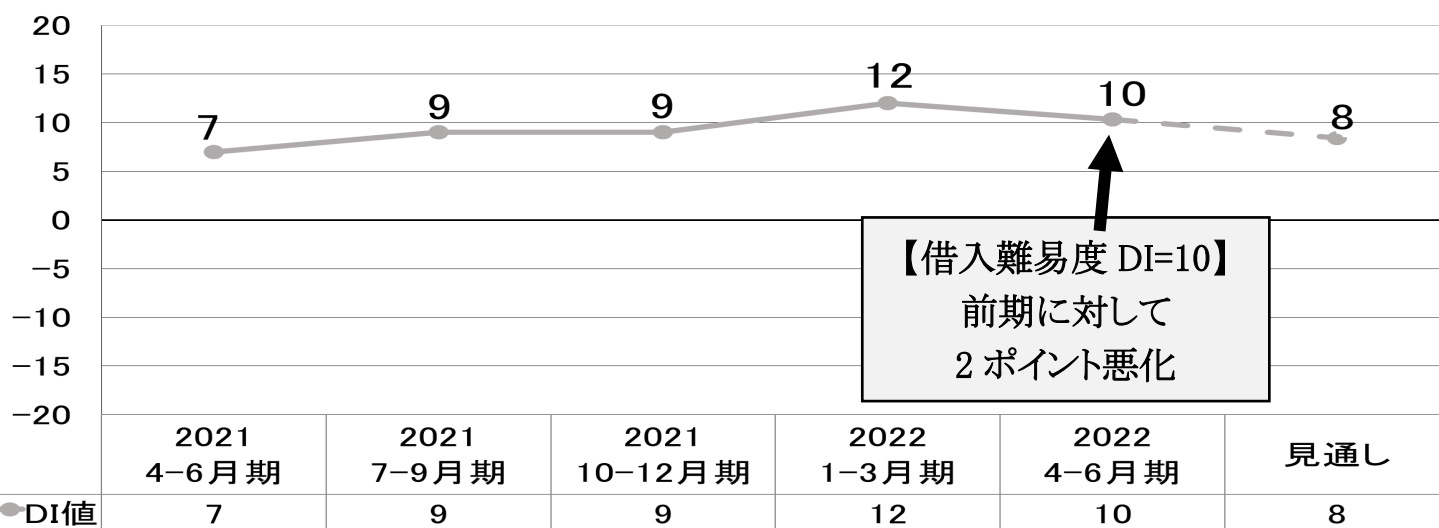
営業利益DI (2021年4-6月期～2022年4-6月期と見通し)



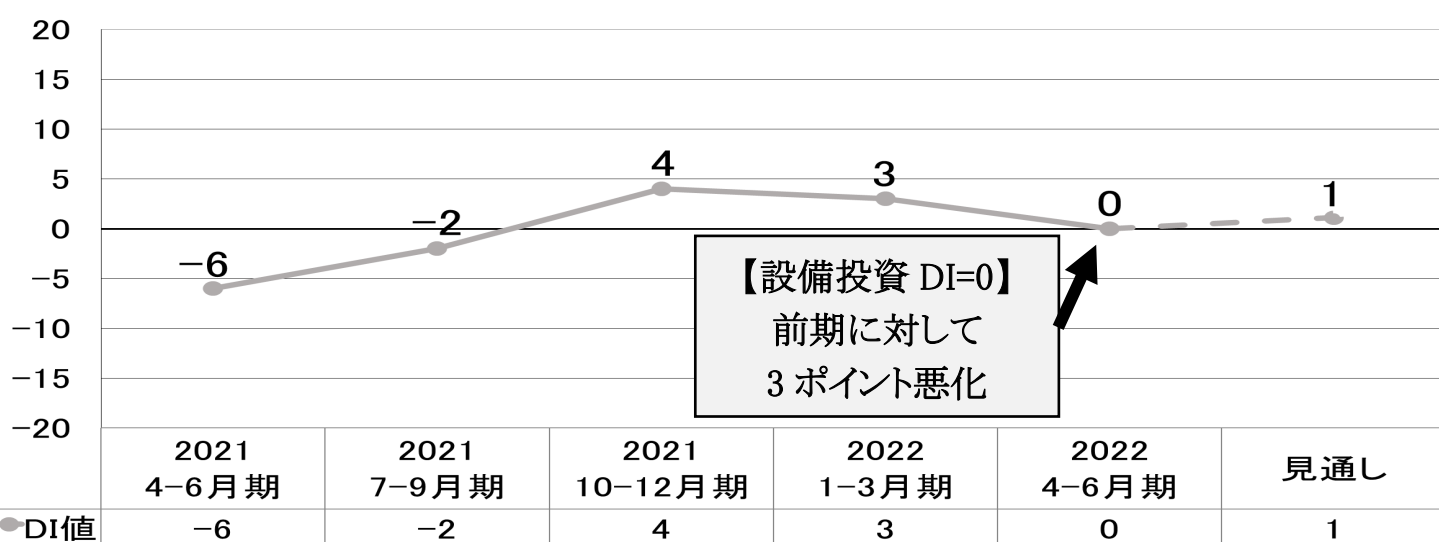
資金繰りDI (2021年4-6月期～2022年4-6月期と見通し)



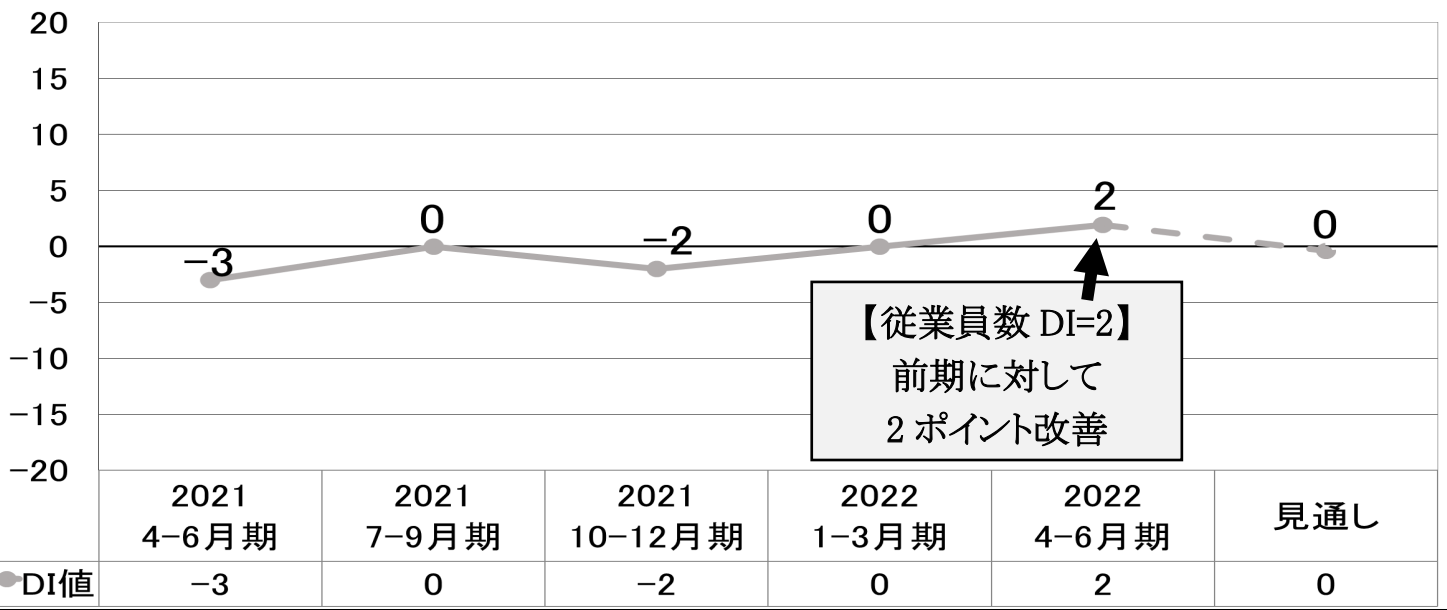
借入難易度DI (2021年4-6月期～2022年4-6月期と見通し)



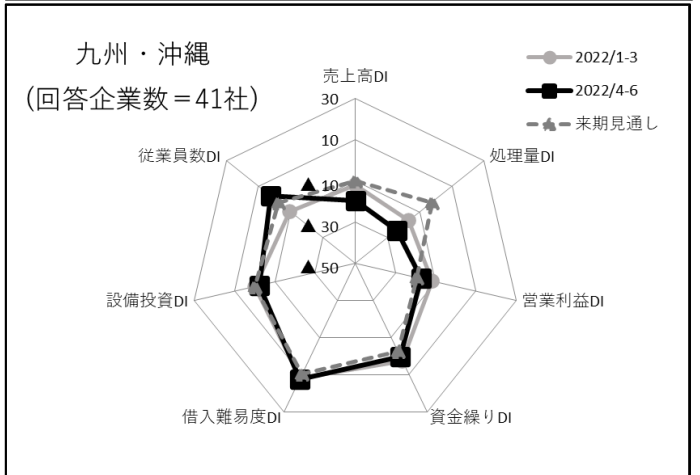
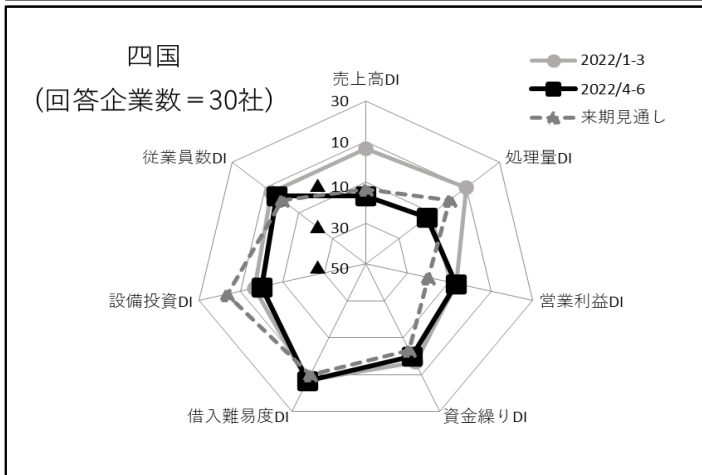
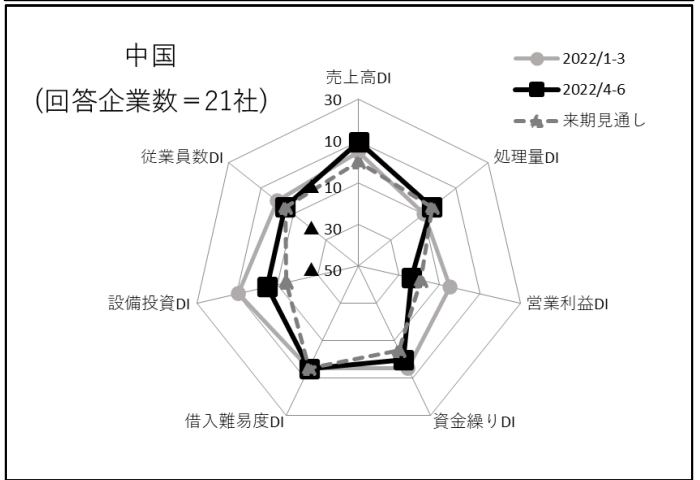
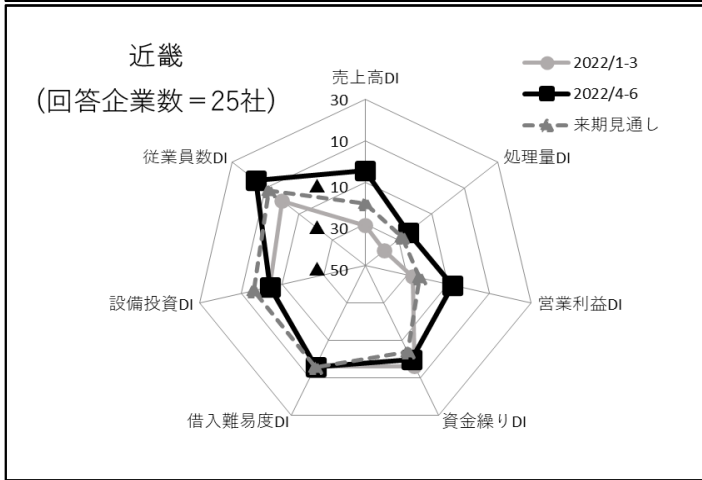
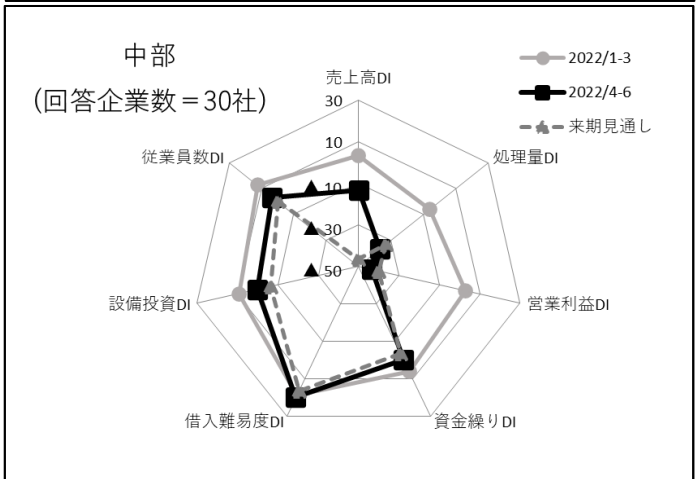
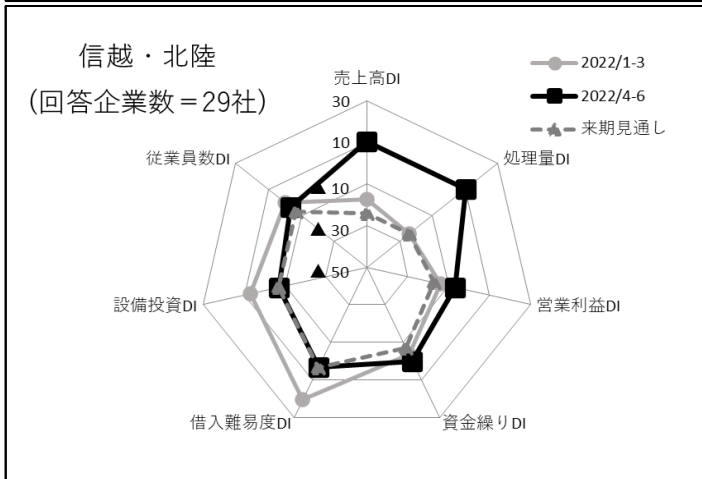
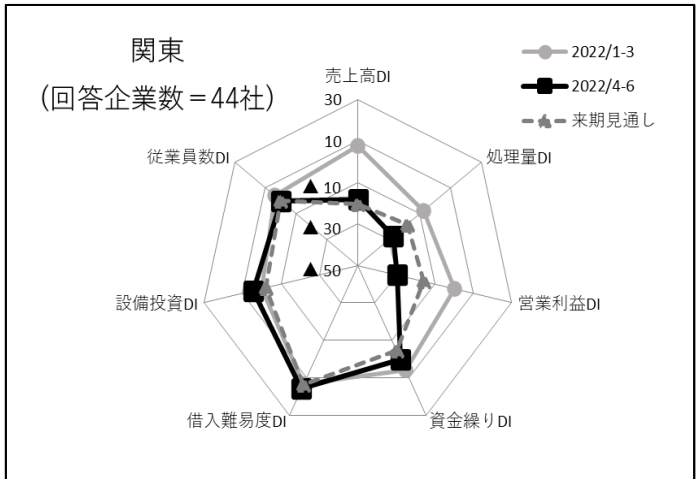
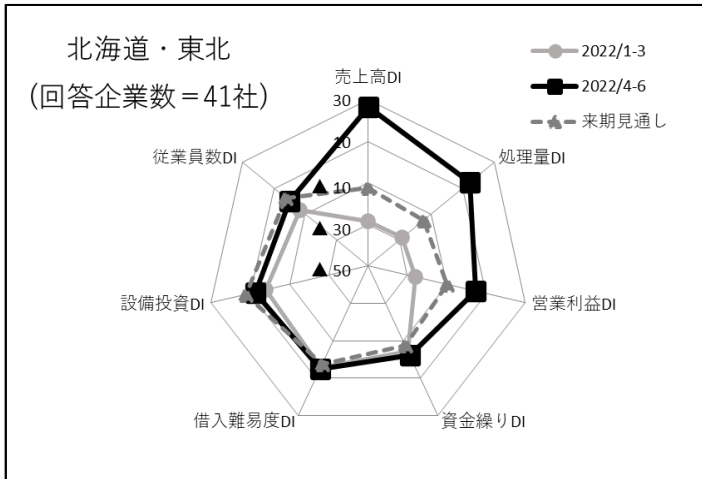
設備投資DI (2021年4-6月期～2022年4-6月期と見通し)



従業員数DI (2021年4-6月期～2022年4-6月期と見通し)

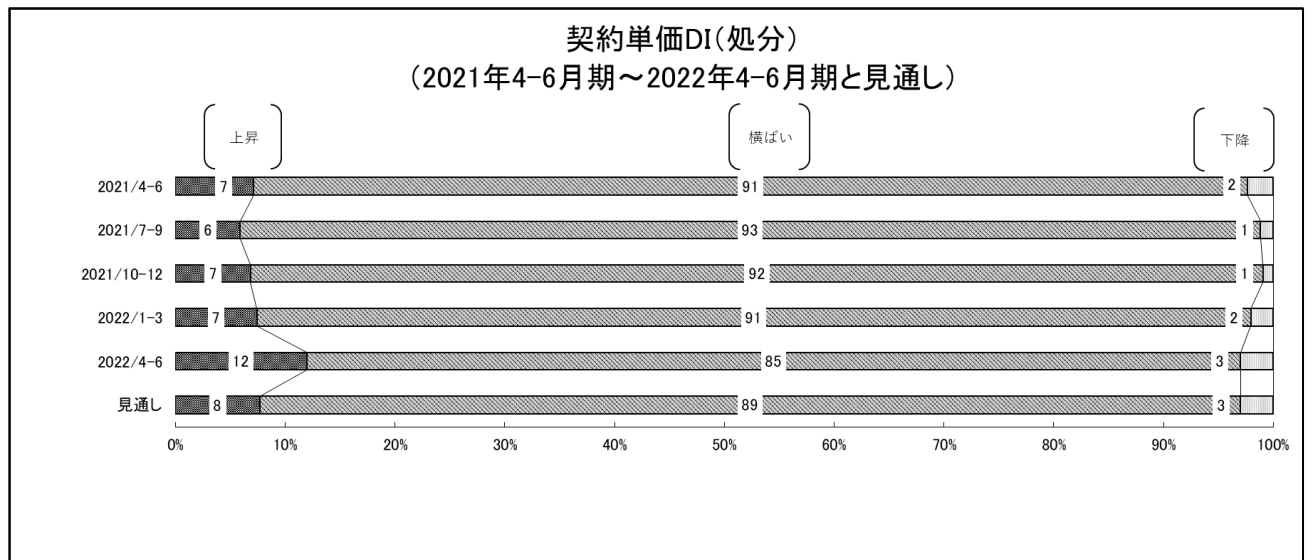
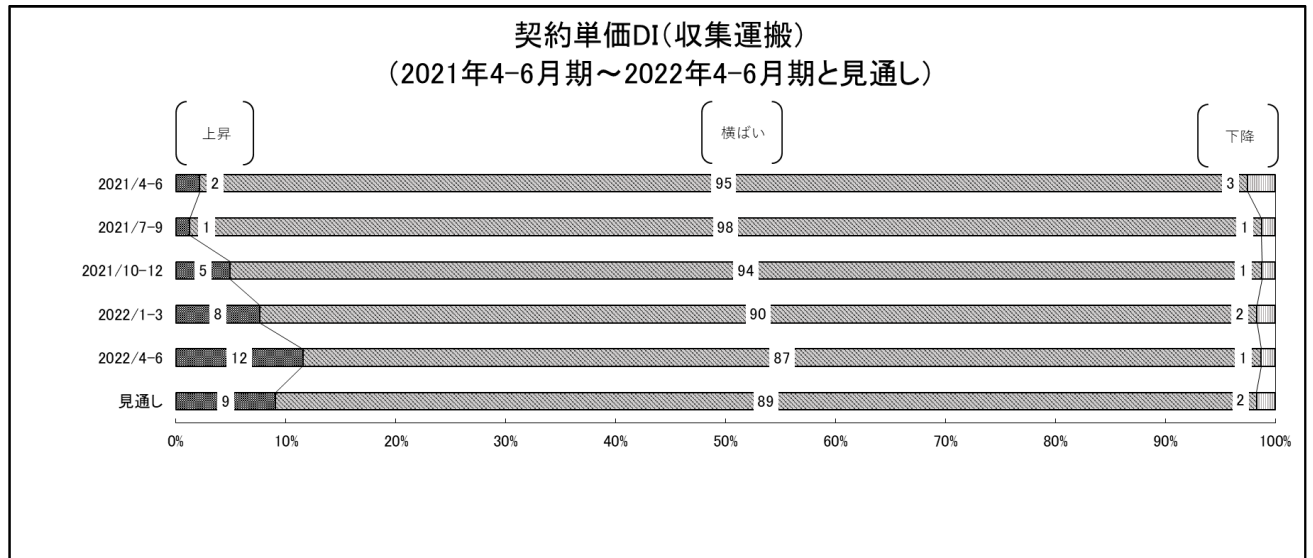


【売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI の地域別レーダーチャート】



(3) 契約単価 DI

- 収集運搬の契約単価 DI は 11 となり、前期と比べて 5 ポイント改善した。
見通しは 7 となり、4 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 処分の契約単価 DI は 9 となり、前期と比べて 4 ポイント改善した。
見通しは 5 となり、4 ポイント悪化する見込みとなっている。



2. 売上高の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、0.1%増となった。

有効回答数:129社

単位:千円

前年売上高	2021年4月	2021年5月	2021年6月	平均
	6,874,250	6,434,245	7,429,532	6,912,676
今年売上高	2022年4月	2022年5月	2022年6月	平均
	7,070,035	6,422,689	7,258,263	6,916,996
前年比	2.8%	▲0.2%	▲2.3%	0.1%

3. 処理量の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、0.9%増となった。

有効回答数:133社

単位:トン

前年処理量	2021年4月	2021年5月	2021年6月	平均
	389,865	353,713	416,954	386,844
今年処理量	2022年4月	2022年5月	2022年6月	平均
	403,698	362,918	404,283	390,300
前年比	3.5%	2.6%	▲3.0%	0.9%

4. 経常利益率(経常利益の対売上高比率)

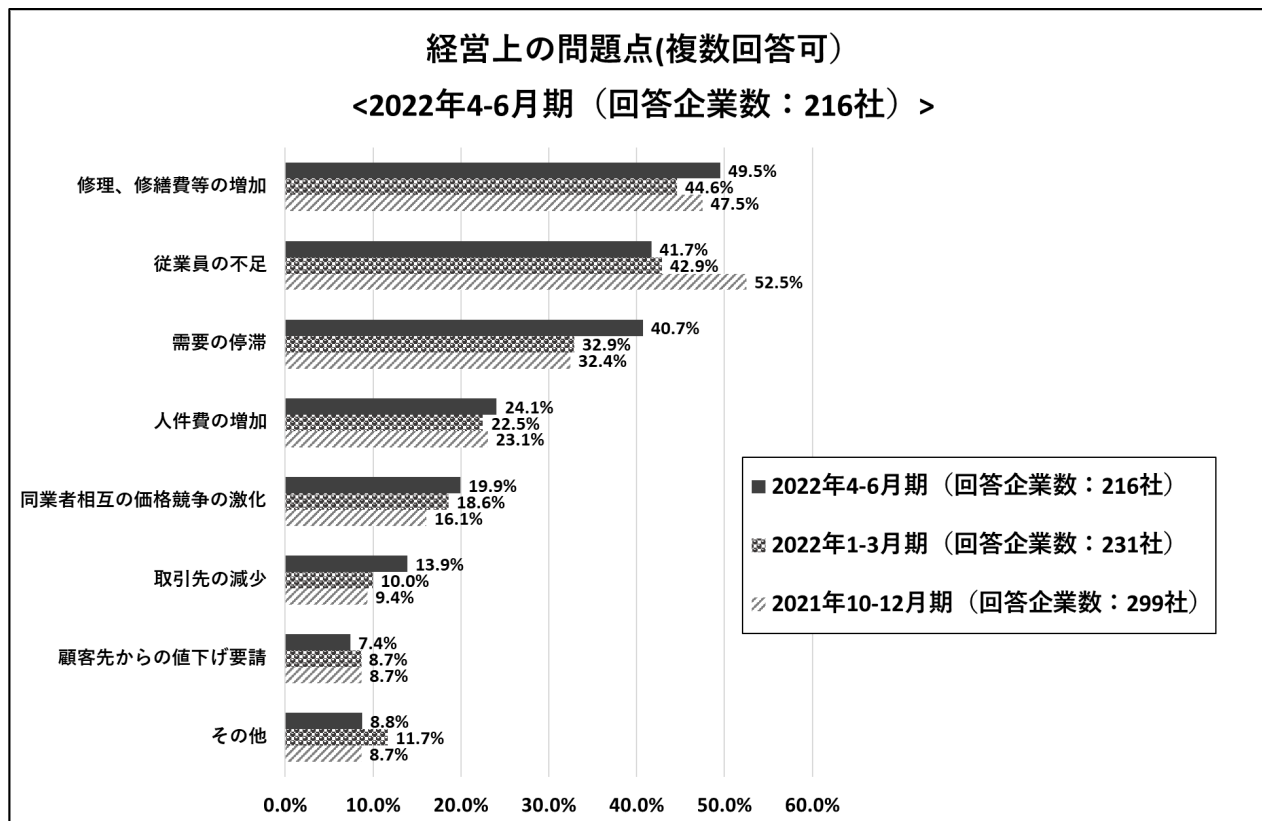
- 経常利益率の平均値は 6.9%で前期調査(9.6%)より悪化した。

有効回答数:122 社



5. 経営上の問題点(複数回答可)

- 経営上の問題点として、約 4 割の会社が「修理、修繕費等の増加」、「従業員の不足」、「需要の停滞」を挙げた。
- 「その他」の記述回答では、前期調査に引き続き、燃料費の高騰を懸念する声が多く寄せられた。



【その他記述回答の代表的な意見】

- ・ 燃料費の高騰 (全 14 件)
- ・ 光熱費などの諸経費の増加
- ・ 資材の値上げに伴う利益の低下

〔調査実施要領〕

本調査は、産業廃棄物処理業の景気動向について把握するため、全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、集計したものである。

(1) 調査対象者

全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員

(2) 調査期間

2022年7月8日～7月31日

(3) 調査方法

Webによるアンケート

(4) 回答数・回答率

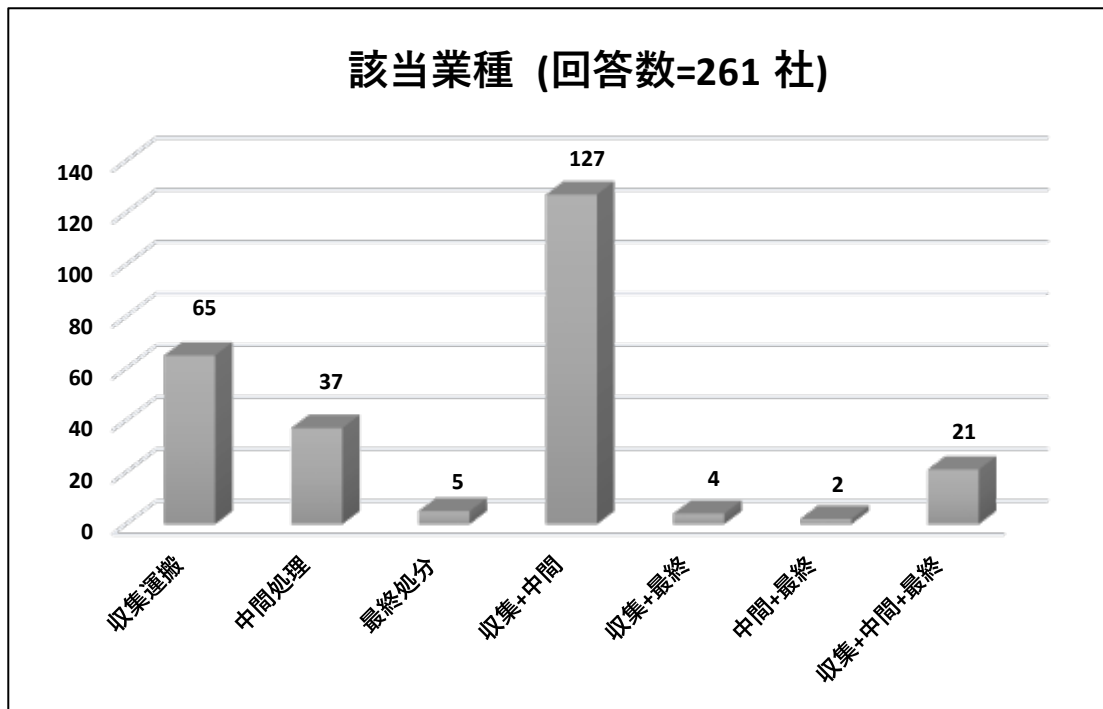
調査依頼企業数	1,159社
回答企業数	261社
回答率	22.4%

(5) サンプル構成

① 地域別構成

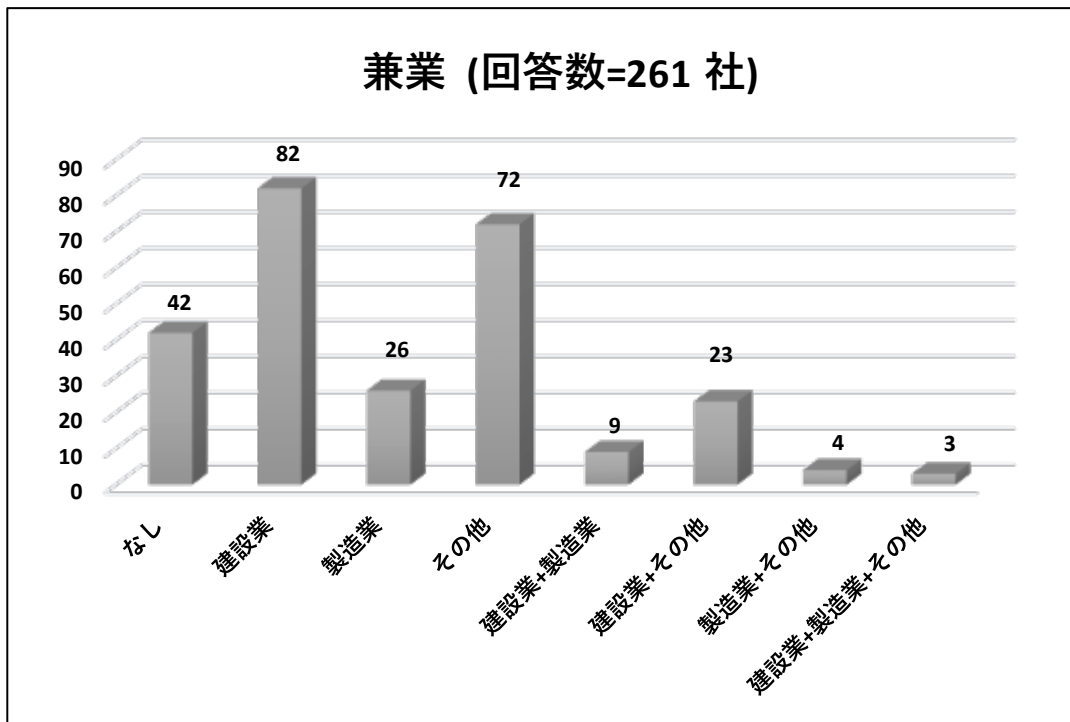
地域	企業数	構成比
北海道・東北	41	15.7%
関東	44	16.9%
信越・北陸	29	11.1%
中部	30	11.5%
近畿	25	9.6%
中国	21	8.0%
四国	30	11.5%
九州・沖縄	41	15.7%
合計	261	100.0%

② 業種別構成



該当業種	企業数	構成比
収集運搬	65	24.9%
中間処理	37	14.2%
最終処分	5	1.9%
収集+中間	127	48.7%
収集+最終	4	1.5%
中間+最終	2	0.8%
収集+中間+最終	21	8.0%
合計	261	100.0%

③ 兼業別構成



兼業	企業数	構成比
なし	42	16.1%
建設業	82	31.4%
製造業	26	10.0%
その他	72	27.6%
建設業+製造業	9	3.4%
建設業+その他	23	8.8%
製造業+その他	4	1.5%
建設業+製造業+その他	3	1.1%
合計	261	100.0%